

ジクロフェナクNa錠25mg「ツルハラ」 使用上の注意改訂のお知らせ

拝啓、時下益々ご清祥の段お慶び申し上げます。

平素は弊社製品に対し格別のお引き立てを賜り厚く御礼申し上げます。

この度、弊社製品であるジクロフェナクNa錠25mg「ツルハラ」の使用上の注意を下記のとおり自主改訂致しましたのでご連絡申し上げます。

今後のご使用に際しましては、新しい〔使用上の注意〕をご参照下さいますようお願い申し上げます。

敬具

記

◆「慎重投与」の項に下記を追記致します。(部追加)

改 訂 後	現 行
(1) 慎重投与 1) ~13) (略) 14) 消化管手術後の患者〔消化管縫合不全を起こすおそれがある。〕 15) ~17) (現行の14) ~16))	(1) 慎重投与 1) ~13) (略) (新設) 14) ~16) (略)

◆「相互作用」の項に下記を追記致します。(部追加)

改 訂 後	現 行												
(3) 相互作用 2) 併用注意 (併用に注意すること) <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 5px;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">薬剤名等</th> <th style="text-align: center;">臨床症状・措置方法</th> <th style="text-align: center;">機序・危険因子</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="font-size: small;">抗凝血剤及び抗血小板薬 ワルファリン レビパリン クロピドグレル エノキサパリン 等 デフィプロチド</td> <td style="font-size: small;">出血の危険性が増大するとの報告がある。血液凝固能検査等出血管理を十分に行う。</td> <td style="font-size: small;">本剤の血小板機能阻害作用とこれらの薬剤の作用により、出血の危険性が増大する。</td> </tr> </tbody> </table>	薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子	抗凝血剤及び抗血小板薬 ワルファリン レビパリン クロピドグレル エノキサパリン 等 デフィプロチド	出血の危険性が増大するとの報告がある。血液凝固能検査等出血管理を十分に行う。	本剤の血小板機能阻害作用とこれらの薬剤の作用により、出血の危険性が増大する。	(3) 相互作用 2) 併用注意 (併用に注意すること) <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 5px;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">薬剤名等</th> <th style="text-align: center;">臨床症状・措置方法</th> <th style="text-align: center;">機序・危険因子</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="font-size: small;">抗凝血剤及び抗血小板薬 ワルファリン レビパリン クロピドグレル エノキサパリン 等</td> <td style="font-size: small;">出血の危険性が増大するとの報告がある。血液凝固能検査等出血管理を十分に行う。</td> <td style="font-size: small;">本剤の血小板機能阻害作用とこれらの薬剤の作用により、出血の危険性が増大する。</td> </tr> </tbody> </table>	薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子	抗凝血剤及び抗血小板薬 ワルファリン レビパリン クロピドグレル エノキサパリン 等	出血の危険性が増大するとの報告がある。血液凝固能検査等出血管理を十分に行う。	本剤の血小板機能阻害作用とこれらの薬剤の作用により、出血の危険性が増大する。
薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子											
抗凝血剤及び抗血小板薬 ワルファリン レビパリン クロピドグレル エノキサパリン 等 デフィプロチド	出血の危険性が増大するとの報告がある。血液凝固能検査等出血管理を十分に行う。	本剤の血小板機能阻害作用とこれらの薬剤の作用により、出血の危険性が増大する。											
薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子											
抗凝血剤及び抗血小板薬 ワルファリン レビパリン クロピドグレル エノキサパリン 等	出血の危険性が増大するとの報告がある。血液凝固能検査等出血管理を十分に行う。	本剤の血小板機能阻害作用とこれらの薬剤の作用により、出血の危険性が増大する。											

以上